

講義年月日	2002年6月12日 (水)
講演者	加藤 好郎氏 (慶應義塾大学三田メディアセンター事務長)
テーマ	21世紀の私立大学の図書館経営戦略
講義内容	<p>1. 大学運営において日本独自の判断と決断が迫られる背景 ・国立大学の独立行政法人化、COE21世紀、専門大学院の立ち上げ、18歳人口減少等</p> <p>2. 図書館運営において独自の運営と経営が迫られる背景 ・変わってはいけないもの：一次資料の充実と拡充 ・変わらなければならないもの：インターネット環境下でのサービス展開</p> <p>3. 三田メディアセンターの最重要事項 ・「人」専門職としての図書館員の育成・養成 & 専門職制の確立</p> <p>4. 大学図書館の役割 教育支援 学部生、大学院生 (修士) 対象。学生の図書館利用の定着は既に達成。 研究支援 大学院生 (博士) と教員 (研究者) 対象。 専門職制の導入</p> <p>5. 三田メディアセンターの6つの政策 Cooperative Service Space Issues Collection Development Bibliographic Data Electronic Library Research and Development</p> <p>6. 専門職としての図書館員とは University Librarian Bibliographer Archivist System Librarian Cataloger Reference Librarian Serials Librarian</p> <p>7. 5つの主題 Science Medicine Law Business Humanity</p> <p>8. 慶應義塾図書館の経営 ・7つの機能を果たすプロフェッショナル・ライブラリアンが、各主題の中で存在しながら、これからの大学図書館経営がなされる。プロジェクト毎にタスクフォース的に集まって、計画を策定し実行し、アウトプットが出た時点で解散し、次のプロジェクトに移行。 ・専門職制の導入～図書館に特化した人材育成 ・専門職制 + 財務、管財、人事等の管理、運営にも参加できるバランス感覚あるスタッフの養成、育成 質の高いライブラリアン 質の高いサービス展開 高い学術情報の生産性 大学図書館の研究支援の実現</p> <p>9. 最後に ・ひとつの大学図書館では、最早何も出来ない時代にある。 ・トップ30 (COE21世紀) では、国公立私立シャッフル時代到来か。 新たな大学図書館グループの立ち上げか (ex: ARL, RLG JAPAN) ・トップはどう決断し実行するか 「何しろ具体的に動くこと、動けば具体的な答えが出てくる」 「問題提起型から問題解決型へ」 「判断は首から上、決断は全身全霊で」</p>
感想	<p>講義は経営者の視点から語られた。一図書館員の立場から見ても、専門的技能を身につけることが生き残りのために不可欠であると感じた。</p> <p>・専門職図書館員が存在する組織とはどんな形態であるかについて興味を抱いた。</p>
配付物	21世紀の私立大学の図書館経営戦略」
備考	<p>加藤好郎 「大学図書館における専門職制度導入の必要性」 『情報管理』 Vol.45, No.3, 2002, p202-205.</p> <p>私学でもコンソーシアムで安価な電子ジャーナルを実現させようということで、国立大学の電子ジャーナル・タスクフォースやSPARCの紹介があった。</p>